

自給飼料生産試験事業

実施主体：畜産試験場
担 当：家畜研究部

1. 研究の目的・必要性

本県の気候・風土に適した飼料作物の奨励品種を選定し、収量を向上させる栽培管理技術を確立する。

2. 研究項目、内容

本県の気候・風土に適した飼料作物の品種選定等を行うため、当場の試験ほ場530aにおいて、は種*法、は種日、は種量、施肥量、刈り取り回数および刈り取り時期を決め、イタリアンライグラス、スーダングラスおよびトウモロコシ等の飼料作物を実証栽培し、発芽良否、草丈、茎径、茎数、病害虫程度、倒伏程度(作物が倒れ伏す割合)、乾物率(作物中の水分以外の成分の割合)、乾物収量(ほ場における単位面積あたりの作物収穫量を乾物の重さで表したものを)を調査することにより、生育性と収量を検討する。

*種をまくこと

3. 期待される成果等(成果目標)

本県の地域条件、経営条件などに適した品種の選定を行うとともに、畜産試験場の実証展示ほ場を利用し、畜産農家への普及を図る。
また、単収向上、効率的な生産利用技術などの指導により低コスト化を実現し、畜産農家の経営安定に資する。

4. 予算額 1,426千円 (財源：一般 1,426千円)